

1 被災者の一時受け入れ

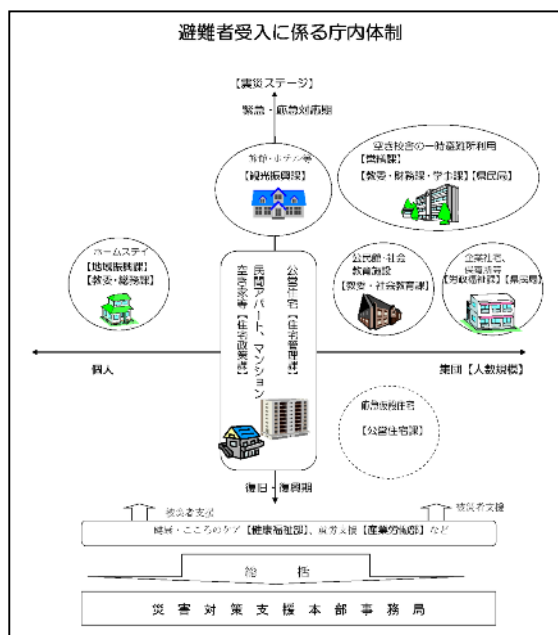
被災者の避難所での大変厳しい生活環境を踏まえ、避難所等の被災者を一時的に受け入れるために、学校の空き校舎を活用した一時遠隔避難所を設置するとともに、「公営住宅・民間アパート」、「ホテル・旅館」、「公民館・研修所」のほか、「ホストファミリー」等の情報を被災地へ提供した。

(1) 避難者受入に係る庁内体制

被災者の避難所での大変厳しい生活環境を踏まえ、関西広域連合は避難生活の受入（公営住宅、社会福祉施設、病院、学校）を支援することについて、3月16日に岩手県、宮城県及び福島県へ文書にて提案した。

また、宮城県等から避難者の受入について強い要請があり、3月18日、関西広域連合が避難所ぐるみの移転に取り組むことやその実現に向け国に対し強く働きかけることを表明した。

さらに、井戸知事の被災地激励訪問の際には、村井宮城県知事との面談で、被災者の遠隔地避難所の開設について、第1段階として一時遠隔避難所の開設、第2段階として公営住宅などを活用した応急仮設住宅等の開設を直接提案した。一方、避難者受入に係る庁内体制については、施設別に担当課を割当て、全庁一丸となって取り組むことを災害対策支援本部会議において決定した。



(2) 県内受入先ガイドブックの提供

被災された方々が遠方に避難するにあたり抱かれる不安を少しでも和らげ、具体的に移転を検討していただけるよう、支援の仕組みを整備するとともに、『受入先ガイドブック』を作成し被災地へ提供した。

〔受入施設〕

受入施設の利用時間、利用形態、サービスの内容などにより、次のとおり分類

一時的避難所

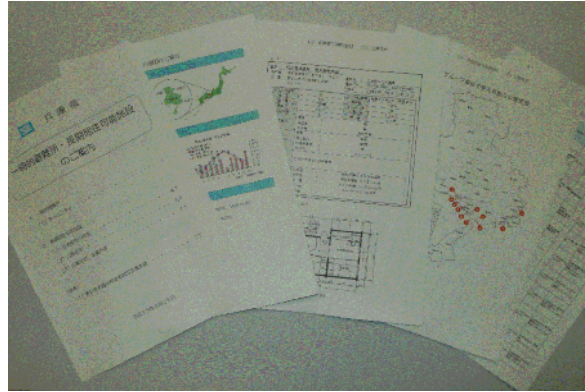
ホームステイ、空き校舎、旅館・ホテル、公民館・研修所

長期居住可能施設

公営住宅、企業社宅・保養所等

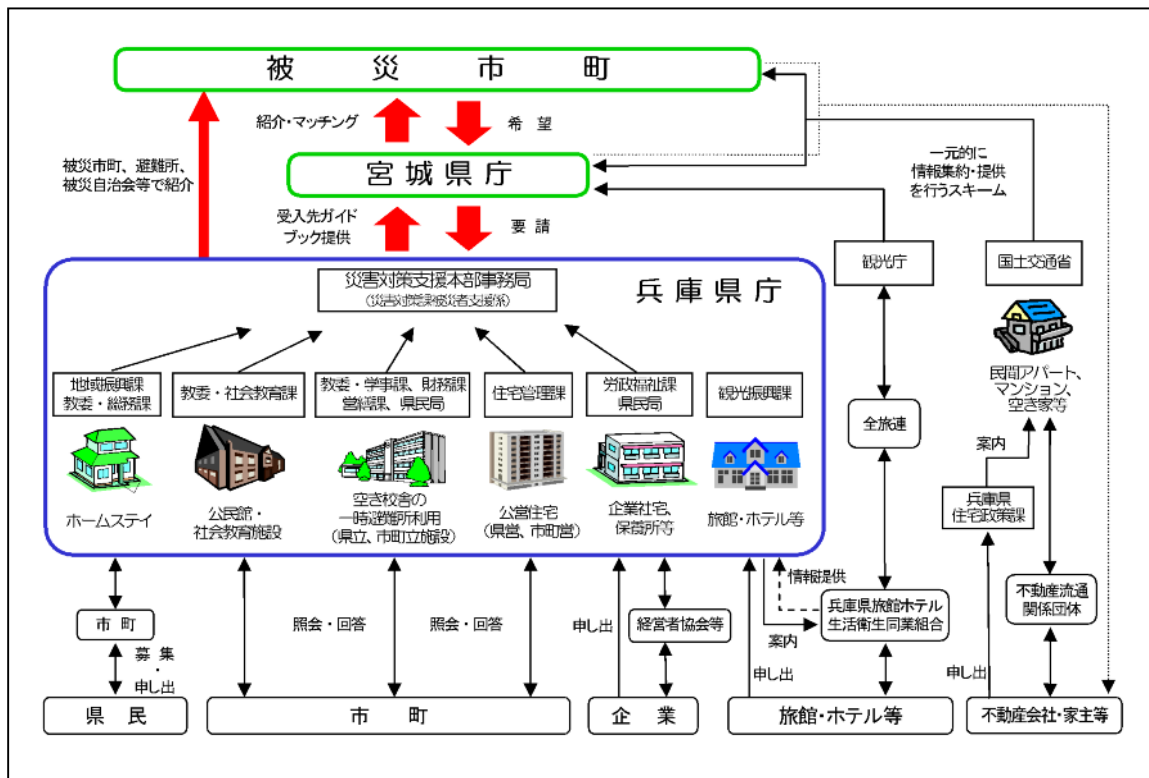
〔ガイドブックの特長〕

- ・ 施設毎に、即入居の可否、受入予定期間、建物の種類、間取り・広さ、受入可能人数、食事提供の有無、受入条件等を明示
- ・ 周辺の生活利便施設(学校、病院、商店等)を表記
- ・ 公営住宅には、グループ単位で受入が可能な団地とその戸数を一覧表(地図付き)で整理するとともに、それぞれの間取りの分かる図面も付記
- ・ 被災者向け就労情報や生活支援制度(県内市町)も掲載
- ・ 兵庫県・市町の位置、気候、各種相談窓口を案内
- ・ 冊子提供のほか、県ホームページでも閲覧可能



県内受入先ガイドブック

〔スキーム(支援の仕組み)〕



(3) 避難者ホームステイ

県内の市町が募集したホームステイ受入れ家庭の情報を集約し、宮城県教育委員会等を通じて津波による被害が甚大な沿岸 15 市町に提供。

〔受入れ家庭の募集状況〕

下記 13 市町が募集し、269 件（受入れ可能人数 513 人）の応募あり

三木市、高砂市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、朝来市、宍粟市、小野市、淡路市、猪名川町、香美町、新温泉町

被災地からの入居希望や問い合わせはなく、全市町とも平成 24 年 3 月までに取組みを終了する予定。

避難者をホームステイで受け入れたいとの申し出は多数あり、各市町も移動費用や当面の生活に対する各種の支援策を用意していたが、結果的には問い合わせもなく、受け入れ実現には至らなかった。主な理由としては、地元を離れ、遠方の知らない土地で全く縁のない家庭の世話になることへの抵抗感や不安が強かったためと思われる。今後の被災者支援は、被災者の立場に立ち、被災者のニーズに的確に対応できる支援策の実施が大切であると考える。



H23.4.8 神戸新聞



H23.4.18 神戸新聞

(4) 地方職員共済組合有馬保養所「瑞宝園」における被災者の受入れ

地方職員共済組合本部の方針にあわせ、被災者の受け入れを実施（平成 23 年 3 月 22 日～ 9 月 30 日）

- ・ 宿泊料は無料、食事代は被災者負担。
- ・ 宿泊実績はなし。

(5) 一時遠隔避難所の設置

関西などの2府4県で構成する関西広域連合は、3月18日、被災者の一時的な生活の場としての遠隔避難所を設置することを発表。兵庫県は、避難所の被災者1万人程度を一時的に受け入れることとし、高校の空き校舎、教室を活用してモデル的に県立淡路高校旧一宮校に一時遠隔避難所を整備した。

被災地の状況と課題

- (1) 被災地の避難所での厳しい生活環境を踏まえ、兵庫県内の県営住宅や市営住宅などの公営住宅で避難者を受け入れる一方で、阪神・淡路大震災の経験から、集落や避難所などのコミュニティがそのまま避難できるよう、県立淡路高校旧一宮校の空き校舎、教室を活用して、一時遠隔避難所をモデル的に整備した（4月25日完成）。当初、候補として、設備等の面から県立洲本実業高校東浦校があがったが、海に近く、津波がトラウマになっている被災者に配慮して、小高い丘の上に建っている淡路高校旧一宮校を整備することに決めた。
- (2) 被災者にとっては、これまで生活してきた地域の近くが望ましいが、避難所生活の安定を図るため、コミュニティ単位で避難できる一時遠隔避難所を整備した。しかし、家族や知人が行方不明となっていたり、地元から離れたくないという被災者の強い思いもあったことなどから、集団避難の申し出はなかった。

経験を生かした支援活動

(1) 避難者に配慮した避難所整備

避難されてきた家族に少しでも快適に過ごしていただくために、プライバシーに配慮した居室、調理室・食堂、診察室、娛樂室、談話室、勉強室などの施設を整備した。設計は県土整備部営繕課、設備課、施工・管理は淡路県民局が受け持った。

居室	・ 3人用（約10㎡）	1室			
	・ 4人用（約14～16㎡）	15室			
	・ 5人用（約16～17㎡）	11室			
	・ 6人用（約20㎡）	6室	合計	33室	150人収容

居室出入口 間仕切りカーテン

仕切り 高さ2.0m（兵庫県産の合板）

床 畳敷き

電灯等 電灯は教室等の照明をそのまま利用

テレビ回線、電気配線は各居室に配備

(2) 避難者に配慮した支援体制の構築

避難者の方々が、できるだけ快適に生活できるよう、受け入れ態勢の整備のため、淡路県民局、淡路教育事務所、淡路島内3市の防災担当課で構成するプロジェクトチームを設置。地元住民の協力を得ながら、医療機関や福祉施設との連携、保健師などによる心のケア、就職支援、被災地の情報提供などのサポート体制を構築。

一時遠隔避難所の活用

- (1) 5月下旬、県内の避難者や被災地での被災者支援をされている神戸市内のNPO法人神戸定住外国人支援センター理事長から、福島県内の高校生の合宿に一時遠隔避難所を使わせてもらえないかとの相談があった。
- (2) 防災局では、淡路県民局とともに受け入れ態勢を整え、8月5日から8月17日の間原発事故の影響で屋外でのクラブ活動が思いどおりにできない状況にあった被災地の生徒等の夏合宿を受け入れた。
- (3) 一時遠隔避難所を宿舎として、淡路市立一宮中学校での練習、本県高校生との交流試合をはじめ、淡路島内観光、神戸観光などを楽しんだほか、被災地の子どもたちも一緒になって本県に避難されている避難者や被災地の子どもたちと県内の高校生、地元住民とも交流し、ともに有意義な時間を持つことができた。

参加者

福島県立平商業高等学校	生徒（12名）	指導教師、家族	29名	
福島県立四倉高等学校	生徒（9名）	指導教師	10名	
学校法人石川高等学校	生徒（7名）	指導教師、家族	10名	
兵庫県内避難者	（2名）	福島県被災児童等	（7名）	9名 合計58名

日程 平成23年8月5日（金）～17日（水）

日		程										
8/5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
到着	練習（一宮中）	島内高校との練習試合 （サンライズ淡路）	姫路商業高校との練習試合 （サンライズ淡路）	練習（一宮中）	島内高校との練習試合 （津名臨海）	島内観光 さよならイベント	練習（一宮中）	練習（一宮中） 歓迎セレモニー	練習（一宮中）	島内高校との練習試合 （一宮中）	神戸観光 さよならイベント	出発

（ ）は練習、練習試合の場所

練習

午前 8 時 30 分～12 時、午後 13 時 30 分～16 時の間、近く淡路市立一宮中学校のテニスコートで練習。宿舎からの中学校までは、自転車で移動。平商業高校主将の泉田 彩花さんは、「放射能を気にせず練習できてうれしい！」

練習試合

県内の高校に呼びかけ、洲本実業高校、姫路商業高校、津名高校、洲本高校、香寺高校、神戸星城高校が参加し、淡路島内のサンライズ淡路、津名臨海公園などで開催。好天気に恵まれ、高校生たちは元気にコート内を走り回った。



歓迎イベント



練習風景（一宮中）



H23.8.9 産経新聞

食事等のおもてなし

地元の旬の食材を使った食事を提供。

調理は、地元の淡路市社会福祉協議会、淡路ブロックいずみ会、洲本市のボランティアグループ「寿」、兵庫県立大学ボランティアサークル“Bridge”、NPO法人神戸定住外国人支援センター職員が交代で担当いただいた。

メニューは、「ひょうご野菜カレー」「肉じゃが焼きコロッケ」「たこ飯」「八モのお吸い物」「肉じゃが」「鳴門ワカメのサラダ」など。佐用町の鹿コロッケも提供。



H23.8.11 毎日新聞

イベント

淡路ブロックいずみ会や島内ボランティア団体の調理による地元食材を活かした食事を提供。さよならイベントでは、「国生み太鼓」の演奏や地元バンドの演奏も披露。地元町内会の皆さんをはじめ、地元高校生（洲本高校、洲本実業高校、津名高校、淡路高校、淡路三原高校、柳学園）、兵庫県立大学ボランティアサークル“Bridge”、関係者が交流を深めた。



読売新聞より（淡路人形浄瑠璃館）

また、淡路島内の淡路夢舞台（夢舞台温室）、国営明石海峡公園、淡路ファームパーク・イングランドの丘、淡路人形浄瑠璃館、神戸では、三宮の周辺散策、南京町、神戸市立須磨海浜水族園で楽しんだ。

各団体等の協力

淡路市社会福祉協議会.....毎日の昼食・夕食調理
県内避難者等のボランティア.....毎日の朝食調理
淡路ブロックいずみ会.....イベントの食事調理・食育
地元自治会、島内有志.....イベントへの協力・参加
兵庫県立大学ボランティアサークル“Bridge”
.....朝食の調理、絵本読み聞かせ、勉強指導、イベントへの協力
津名高校放送部.....合宿の取材・記録

寄付等によるご協力

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| ・グローバル・ウィメンズ・クラブ | 寄付 200 万円 |
| ・全労済 兵庫県本部 | 寄付 100 万円 |
| ・マイスター工房八千代（多可町） | 寄付 100 万円 |
| ・地球と行動委員会 | 寄付 10 万円 |
| ・NPO法人神戸西助け合いネットワーク | （無償貸与）自転車 25 台、
冷蔵庫、洗濯機 |
| ・佐用町商工会青年部 | 鹿コロッケ 170 個 |
| ・新関西衣料サービス株式会社 | （無償貸与）寝具 |
| ・明治安田生命保険相互会社 | トイレットペーパー90ロール |
| ・JAあわじ島 | 玉葱 3 箱（約 200 個） |
| ・淡路島酪農農業協同組合 | 淡路島牛乳 200 100 個ほか |
| ・森漁業協同組合 | 味付けのり 33 袋ほか |
| ・洲本市 | オニオンスープ 60 袋 |
| ・南あわじ市 | 素麺 3 束 60 個 |
| ・淡路市 | たこせんべい 60 袋 |

関係職員のコメント

【淡路県民局防災課 課長補佐 地白 雅則】

福島の高校生やご家族の方たちは、放射線を気にすることなくテニスや海水浴のほか、虫取りや花火など屋外でのスポーツや遊びをしながら、のびのびと楽しく淡路島での滞在生活を過ごされました。中でも地元のボランティアの人たちが心を込めて作ってくれる食事が何よりの楽しみだったと、多くの生徒達の手紙に書かれていました。今回の受け入れには、地元の方、ボランティアの方など多くの方々にご協力いただき、福島の人たちに“元氣と勇氣”を贈ることができたと思います。この“元氣と勇氣”が福島の復興の力になることを願っています。

(6) 県営住宅の提供

被災地での応急仮設住宅等が完成するまでの期間、県営住宅を被災者に提供する。

被災地の状況と課題

- (1) 応急仮設住宅建設用地確保の難航による応急仮設住宅の建設の遅れ
- (2) 福島第一原子力発電所の事故による遠隔地への避難

経験を生かした支援活動

(1) 公営住宅等への入居の取り扱い

平成 23 年 3 月 12 日に国土交通省より「東北、関東、北陸地域では甚大な被害を受けており、今後被災者の住宅を緊急に確保する必要があるため、被災者が公営住宅等への入居を希望した場合における取扱いについては、被災者の負担の軽減を図るなどの最大限の配慮を願いたい。」との依頼が都道府県に対してあった。

(2) 被災者への県営住宅提供事業の実施

一般被災者の受入

被災地での仮設住宅等の建設により居住の安定が図られるまでの間、県営住宅を提供することとし、平成 23 年 3 月 16 日記者発表、17 日から 100 戸の募集を開始した。

人工透析治療が必要な被災者の受入

宮城県透析医会から兵庫県透析医会の要請に基づき、人工透析が必要な人への支援の一環として、送迎サービスのある透析施設が多く立地している神戸市北区、明石市、姫路市の県営住宅を提供することとし、平成 23 年 3 月 24 日記者発表、25 日から 100 戸の募集を開始した。

応急仮設住宅としての県営住宅の活用

被災地では応急仮設住宅の建設については、用地や建設施工業者の確保など課題があるため、被災地外での提供が必要と考え、県営住宅 1,000 戸の提供を平成 23 年 3 月 26 日から開始した。

被災者のグループ（コミュニティー等）単位での一時移転の受入をスムーズに行うため、すでに提供を予定している 1,200 戸と県住宅供給公社住宅の中から、1 地区において 50 戸以上の戸数を提供できる 11 地区 17 団地をまとめ、平成 23 年 4 月 7 日、宮城県、気仙沼市、石巻市、南三陸町に送付した。

入居要件の緩和

福島第一原子力発電所及び第二発電所の事故に伴う被災者の入居要件については、当初は避難指示の地域に居住されていた方に限定していたが、被災地の状況の変化に対応して、対象地域を平成 23 年 4 月 22 日には、「計画的避難区域」及び「緊急避難時準備区域」を加え、10 月 4 日には福島県全域に拡大した。

(3) 実績

18戸(平成24年3月11日現在)

被災地支援で学んだこと(問題点)

- (1) 入居者が不慣れな地域、住まいで安心して住めるよう、県と市町の福祉部局等が連携し、高齢者や障害者、母子世帯などを含めた入居者に対して、見守りや声かけなどの実施、LSAやケースワーカーの派遣、自治会活動等への参加などを進めるため、入居者の承諾を得て、入居者情報を市町に提供するとともに、市町と連携して、入居者への被災地情報の提供にも努める必要がある。
- (2) 被災者がすぐ入居できる住戸を提供する必要があったため、すでに空家補修を終え、公募を予定していた100戸で募集を開始したが、県民向けの公募でも高倍率で空家発生が少ない神戸市東部、阪神臨海部を希望する方が多く、市営住宅での提供戸数も限られていたため、入居希望地域、住戸に入居できない世帯があった。
- (3) 日本赤十字社が被災者に家電セットを寄贈していたが、当初は希望者が集中して家電セットが届くまで申込みから2ヶ月以上要していた(寄贈の手続きは各被災県を通じて行なわれ、さらに各家電メーカーにより提供に要する期間が異なったため、入居者の申込みから寄贈されるまでの所要期間が違った。)

(7) 民間賃貸住宅の借上提供

住宅供給公社が民間から借り上げ管理している民間賃貸住宅を、応急仮設住宅として県が借り上げ、被災者に提供する。

被災地の状況と課題

- (1) 応急仮設住宅建設用地確保の難航による応急仮設住宅の建設の遅れ
- (2) 福島第一原子力発電所の事故による遠隔地への避難

経験を生かした支援活動

- (1) 応急仮設住宅としての民間賃貸住宅の借り上げの取り扱い

平成 23 年 4 月 30 日に厚生労働省が「県が民間賃貸住宅を借り上げて被災者に提供した場合に、救助法適用となる。」等の応急仮設住宅としての民間賃貸住宅の取り扱い（社援発 0430 第 1 号）を示したことにより、福島県、宮城県、岩手県から兵庫県に対して同様の取り扱いについて依頼があった。

- (2) 兵庫県民間賃貸住宅借上提供事業の実施

県において、事業の実施について検討した結果、国から示されている家賃の上限が 6 万円では、提供できる住宅が少ないことから、兵庫県住宅供給公社（以下「公社」という。）の協力を得て、公社が管理している民間借上型特定優良賃貸住宅を県が借り上げ提供することとした。（6 月県議会補正予算計上）

公社が募集の窓口となり、平成 23 年 6 月 20 日記者発表、22 日から募集を開始した。

- (3) 実績

15 戸（平成 24 年 3 月 11 日現在）

被災地支援で学んだこと（問題点）

- (1) 日本赤十字社が被災者に家電セットを寄贈していたが、当初は希望者が集中して家電セットが届くまで 2 ヶ月を要していた（寄贈の手続きは各被災県を通じて行うため、被災県により申込みから寄贈されるまでの所要期間が違った。）

被災者は家電セットが届くのを待って入居を希望したため、申込から入居まで日時を要し、最初の入居者は募集から約 2 ヶ月たった 8 月 12 日となった。

- (2) 募集住宅を公社が管理している住宅に限定したため、既に兵庫県に避難し民間賃貸住宅に入居している被災者は該当住宅へ転居しなけりばならなかったが、子供の転校等から転居が困難な世帯があった。

2 県内避難者登録と窓口設置

阪神・淡路大震災の発災時に、県外に避難された避難者の状況把握に苦渋した経験を踏まえ、東日本大震災の発災した3月、本県内に避難・転入された被災者の状況を把握するため、「県内受入被災者登録制度」を創設し、避難者からの相談と登録窓口を県内全市町に設置した。

被災地の状況と課題

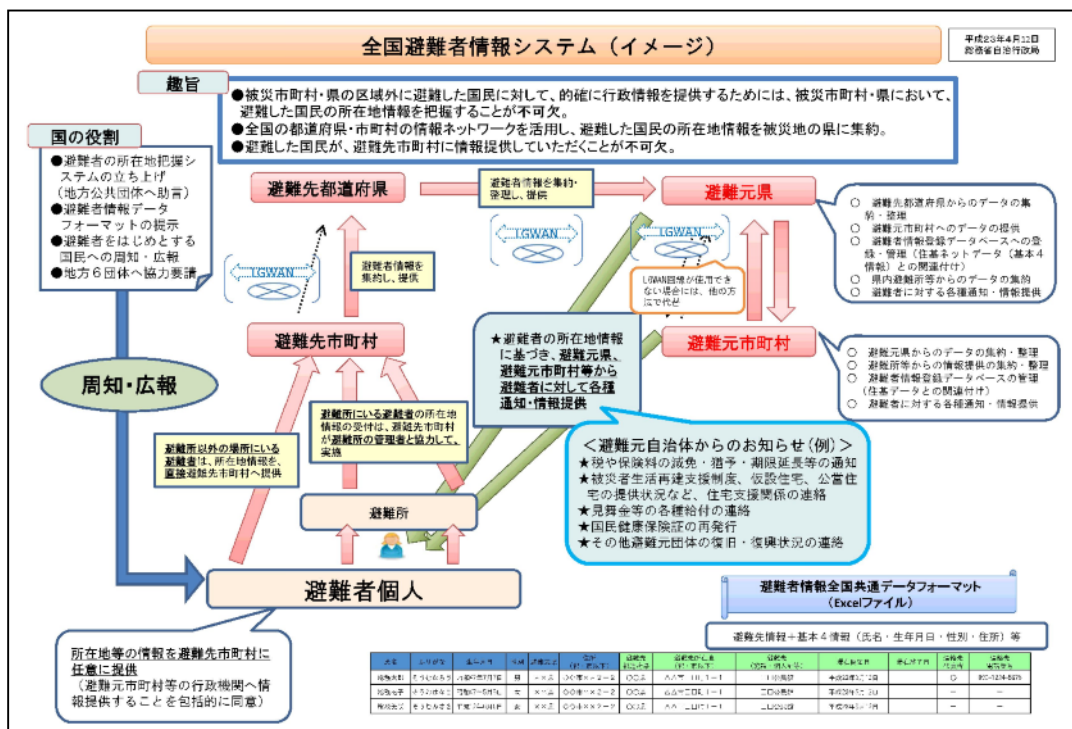
- (1) 震災の影響により、被災者が全国各地へ避難している。
- (2) 被災者に的確に行政情報を提供するためには、被災市町村・県において、避難者の所在地情報を把握することが不可欠

経験を生かした支援活動

阪神・淡路大震災の際に多くの兵庫県民が全国各地に避難され、その実態把握に苦渋した経験を踏まえ、先行して3月24日から受付を開始した神戸市の県内被災者登録制度にあわせて、3月28日に県内全市町に対して相談と登録窓口の設置を依頼し、4月4日には県内全市町に相談と登録窓口が設置され、受付が開始される運びとなった。

その間、関西広域連合構成府県においても、同登録制度の創設が合意(3月29日)に至り、本県の取組みを参考に実施されることとなった。

その後、総務省においても、関西広域連合の取組みを参考に同様の登録制度の創設が検討され、4月12日に各都道府県知事・各指定都市市長あてに、全国制度(全国避難者情報システム)の創設に係る協力依頼がなされることとなった。



3 就労支援

本県に避難されている被災者の雇用の確保のため、緊急雇用就業機会創出基金を活用して「東日本大震災被災者就労支援事業」を実施したほか、「就労支援事業紹介窓口」の設置、県ホームページの特設ページを開設し、求人情報の提供や各種相談への対応を行った。

被災地の状況と課題

- (1) 東日本大震災に伴い、住居や仕事を失った被災者が本県を含む全国各地へ避難
- (2) 避難者の生活の安定を図るため、就労支援が必要

経験を生かした支援活動

- (1) 緊急雇用就業機会創出基金を活用して「東日本大震災被災者就労支援事業」を実施し、県の臨時職員としての採用、公共施設維持管理・美化、観光誘客、共済制度普及促進等の業務への従事、被災農業者・漁業者の受け入れなどにおいて、約1,000人の雇用機会を提供した。この中には、東日本大震災ボランティア・インフォメーションセンター・兵庫（ひょうごボランタリープラザ内）の常駐スタッフとして、被災者雇用など被災地とつながる仕事に従事していただいているケースもある。
また、国の第3次補正予算により、震災及び円高の影響による失業者の雇用機会創出への支援として、重点分野雇用創造事業で39.4億円の追加交付があったが、この実施にあたっては、被災者の雇用に十分配慮していく。
- (2) 「就労支援事業紹介窓口」を産業労働部しごと支援課に設置し、求人情報の提供や各種相談への対応を行うとともに、被災者の様々なニーズに対応するため、民間企業やハローワークとも連携し、民間企業の求人情報の提供等を行った。
- (3) 県ホームページに「東日本大震災被災者就労支援事業」特設ページを開設したほか、避難先が判明している被災者にダイレクトメールを送付し、求人情報を提供した。

〔経緯〕

- 4月14日（木） 被災失業者1,000人雇用の方針を発表
- 4月19日（火） 就労支援事業照会窓口設置、県HPに被災者向け求人情報ページ開設
- 4月22日（金） 県内避難者79世帯にDM発送
- 5月13日（金） 県内避難者154世帯（うち新規85世帯）にDM発送
- 6月24日（金） 県内避難者210世帯（うち新規77世帯）にDM発送
- 11月21日（月） 平成23年度第3次補正予算成立

4 こころのケア支援

【園芸療法を活用した被災者支援】

兵庫県立淡路景観園芸学校と兵庫県園芸療法士会（兵庫県園芸療法士）被災者支援ボランティアが、兵庫県内に避難している被災者に対し、園芸療法の要素を取り入れた花とみどりを活用したこころと暮らしのケアを行った。

被災地の状況と課題

兵庫県へ避難を余儀なくされた方へのこころのケアが必要

経験を生かした支援活動

(1) 研修会の開催

こころのケアと花とみどりを活用した支援についての研修会開催

4月9日、園芸療法課程教員の豊田正博、天野玉記を講師とし、兵庫県園芸療法士を対象とした研修会を開催した。兵庫県園芸療法士23名が参加し、今後の支援、体制作り等を議論した。

花とみどりによる被災者支援拡大研修会開催

4月23日、24日にはアルファグリーンネット会員や一般に広く呼び掛け、研修会を開催した。2日間を通して、兵庫県園芸療法士21名、一般73名が参加し、被災地での支援経験を持つ臨床心理士の梨谷竜也氏より心のケア研修についての講義を受けた。また研修会参加者のうち、49名から被災者支援ボランティア登録があった。



研修会の様子

(2) 支援活動の実施

ジフィーと種を届ける

株式会社サカタのタネより提供いただいたジフィー（簡易種まき用土）とマリーゴールドの種をイベント案内とともに兵庫県内避難者へ届けた。

準備には兵庫県園芸療法士2名、被災者支援ボランティア11名が参加した。

東日本チャリティー神陵台E.Eバザーへの参加

5月22日、神戸市垂水区にてブースの一角を担当。教員1名、兵庫県園芸療法士3名が参加し、来場者にハーブ手浴を行った。



送付したジフィーと種など

ハーブ手浴：洗面器などの容器に38度程度のお湯、生のハーブを入れ、手や肘をつけて楽しむもの。ハーブの香り、お湯の適度な温かさが癒しやリラクセス、リフレッシュといった効果を与える。

第1回花❀みどりふれあい体験の実施

7月10日、神戸市西区にて「第1回花❀みどりふれあい体験」を開催。教員2名、兵庫県園芸療法士5名がハーブ手浴、お花のお弁当箱作りのプログラムを実施し、6名の避難者が参加した。参加者からは、「震災以来、久しぶりに何もかも忘れて楽しむことができました。今まで気持ちがマイナス地点のままでしたが、ゼロ地点に進むことができそうです。」といった感想があった。

お花のお弁当作り：お弁当箱を容器とした簡単フラワーアレンジメント。花を切ることでストレスの発散、作業に熱中する時間を持つこと、色鮮やかな花や出来上がりが快感情を刺激すること、などの効果を与える。

淡路景観園芸学校へ招待

9月10日、兵庫県立淡路景観園芸学校にて他支援団体との共催でイベントを開催した。教員1名、兵庫県園芸療法士6名、被災者支援ボランティア7名が庭の植物を使ったミニブーケ作り、葉っぱペイントのプログラムを実施し、45名の避難者が参加した。

子どもは庭園内を飛び回り、大人も解放的な自然の中でリラックスしている様子。参加者は植物を介して人とふれあい、非日常の楽しさを味わった。

葉っぱペイント：葉の葉脈に絵の具を塗り、はがきやエコバッグなどに色を写す。

第2回花❀みどりふれあい体験の実施

10月2日、明石市にて「第2回花❀みどりふれあい体験」を開催した。兵庫県園芸療法士5名が暮らしの中にみどりを取り入れ、癒しの時間・空間を提供したいと考え、ハーブ手浴と観葉植物の寄せ植え、ルームコロン作りのプログラムを実施し、4名の避難者が参加した。

観葉植物の寄せ植え：透明容器に高分子ポリマーを土として代用し、観葉植物を植える。室内での栽培可。

ルームコロン作り：数種類のエッセンシャルオイルを混ぜ合わせ、自分好み（効果や香り）のルームコロンを作る。

第3回花❀みどりふれあい体験の実施

12月11日、神戸市中央区にて「第3回花❀みどりふれあい体験を」実施した。教員1名、兵庫県園芸療法士6名がドライフラワーや木の実を使ったリース作りのプログ



学校庭園内を散策する様子



ハーブ手浴を行う様子

ラムを実施し、9名の避難者が参加した。
リピート参加者が多く、この活動を通して知り合った方も多い。この支援活動やイベント、植物が人と人をつなぐ役割を果たしている。プログラムは和やかな雰囲気の中実施され、参加者は楽しい時間を過ごした。



リース作りを行う様子

5 東日本大震災兵庫県内避難者の芸術・文化等への招待

【東日本大震災兵庫県内避難者の県主催コンサート等への招待】

東日本大震災で被災し、兵庫県への避難生活を余儀なくされた方に、明日への希望を見つけていただくことができるよう、県主催コンサート等に招待し、楽しいひとときを過ごしていただいた。

芸術文化センター、ピッコロシアター等において9事業12公演 121組244名を招待した。招待にあたっては被招待者のプライバシー確保に万全を期した。

とき・ところ	公演名・主な内容	招待者数
6月10日(金) 19:00～ 芸術文化センターROBELO大ホール	「岩代太郎 シンフォニア・エスプレッソ」 指揮：岩代太郎 ヴァイオリン：竹澤恭子 ピアノ：稲葉瑞奈 管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団 曲目：『読経、そして舞へ：大河ドラマ「義経」メインテーマ 他	18組41名
6月25日(土) 14:00～ 兵庫県公館	がんばろう東日本!!第89回のじぎくサロンコンサート 『南部やすか フルトリサイタル「初夏の風、神戸の香り」』 フルート：南部やすか ピアノ：河内仁志 曲目：「アルルの女」よりメヌエット 他	11組21名
7月13日(金) 14:00～ 芸術文化センターROBELO大ホール	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ 2011 喜歌劇『こうもり』公開リハーサル 指揮：佐渡裕 演出：広渡勲 管弦楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団 出演：黒田博、塩田美奈子、森麻季、晴雅彦、 ヨハン・ヴォガルスキー、桂ざこば、剣幸 他	21組35名
8月2日(火) ①14:30～ ②8:30～ 芸術文化センターROBELO大ホール	東日本大震災復興祈念・コンサート『アウグスト・エンリケス & ブエナ・ビスタ・オールスターズ』 出演：A・エンリケス、ブエナ・ビスタ・オール スターズ、パンチョ・アマート 他 曲目：マンボNo.5、キエレメ・ムーチョ 他	22組42名 (①②計)
8月6日(土) ①11:00～ 8月7日(日) ②11:00～ ③15:00～ 児童青少年劇場館 (ピッコロシアター) 大ホール	兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場 『扉のむこうの物語』 原作：岡田淳 台本：つげくわえ 演出：平井久美子 (兵庫県立ピッコロ劇団) 出演：兵庫県立ピッコロ劇団	11組29名 (①～③計)
8月20日(土) 14:00～ 児童青少年劇場館 (ピッコロシアター) 大ホール	2011ピッコロフェスティバル特別企画 ／2011ピッコロ寄席「桂枝雀一門会」 出演(演目)：桂南光(あくびの稽古)、 桂雀松(替り目) 他	13組27名
9月10日(土) 14:00～ 児童青少年劇場館 (ピッコロシアター) 大ホール	東日本大震災復興祈念ピッコロ狂言会 出演：善竹忠一郎、善竹隆司、善竹隆平、 大藏千太郎 他 演目：千鳥(ちどり)、宗論(しゅうろん)	2組3名
9月11日(日) 15:00～ 芸術文化センターROBELO大ホール	兵庫芸術文化センター管弦楽団第45回定期演奏会 ～佐渡裕 オークストラの魅力～ 指揮：佐渡裕 ピアノ：ニューニュー 管弦楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団 曲目：ショスタコヴィチ ピアノ協奏曲第1番、 ファリャ「三角帽子」第1・2組曲 他	10組19名
9月17日(土) 15:00～ 芸術文化センター神戸女学院小ホール	がんばろう東日本!!第90回のじぎくサロンコンサート 「森美津子ソプラノリサイタル「ローマへの誘いへち よとおしゃれなクラシックコンサート」 出演：森美津子、ジョアキーノ・ジット 他 曲目：0 sole mio (ディ・カープア) 他	13組27名
2月25日(土) 14:00～ 兵庫県公館	がんばろう東日本!!第91回のじぎくサロンコンサート 岩谷祐之ヴァイオリンリサイタル 出演：岩谷祐之、奈良田朋子 曲目：愛の喜び、漁師の唄 他	2組4名
3月24日(土) 14:00～ 兵庫県公館 (予定)	坂井時忠生誕100年記念コンサート ～坂井時忠音楽賞受賞者による復興支援チャリティコンサート～ 出演：島原早恵、藤井快哉、小西潤子、西本淳、 南部やすか、木村優一、高石香、高田泰治	



のじぎくサロンコンサート
「南部やすか フルトリサイタル」



佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「こうもり」



兵庫県立ピッコロ劇団 ファミリー公演
「扉のむこうの物語」

岩代太郎 シンフォニア

来月10日、県立芸術文化センター

南部やすかりサイタル

来月25日、県公館

東日本大震災 県内避難者を招待

県は、東日本大震災の被災地から県内に避難している人を対象に、県が主催するコンサートに招待する。県芸術文化課は「被災者の皆さんに心と体を癒やし、明日への希望を見つけてもらえれば」と説明している。

県立芸術文化センター（西宮市）では6月10日、NHKの大河ドラマ「義経」のメインテーマなどを手がけた作曲家の岩代太郎さんが指揮するコンサート

「岩代太郎 シンフォニア・エスプレッソ」が聞かれる。「義経」のほか、映画「輝しぐれ」「レッドクリフ」

6月25日には、教友のコンサートで入賞実績のある南部やすかりのフルートリサイタルが県公館（神戸市中央区）で公演される。ビゼーの「アルルの女」よりメヌエットなどが演奏される。南部さんのコンサートは、先着100人まで。6月10日午後5時までに県芸術文化協会文化振興部まで、電話（078・321・2000）かファクス（078・321・2100）で▽鑑賞希望者全員の名前▽連絡先の住所や電話番号——を伝える。

【東日本大震災兵庫県内避難者の県立美術館・博物館への招待】

兵庫県内に避難された方に対し、芸術文化を通して元気を届けるとともに、兵庫県の歴史・自然を知っていただくため、共通利用券を配布して県立美術館・博物館に招待している。

対象施設 県立美術館、兵庫陶芸美術館、県立人と自然の博物館、
県立歴史博物館、県立考古博物館

利用者数 大人 75人 子ども36人 合計111人(2月末現在)

〔利用者数一覧〕

	大人(人)	子ども(人)	合計(人)
6月	9	1	10
7月	5	6	11
8月	14	8	22
9月	14	8	22
10月	9	2	11
11月	16	5	21
12月	2	4	6
1月	3	0	3
2月	3	2	5
合計	75	36	111